

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101150		
法人名	協栄興産株式会社		
事業所名	ふれあいの家 長住		
所在地 (電話番号)	福岡市南区長住1丁目7-8	(電話) 092-554-2610	
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成19年7月21日		

【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	新築/改築	
建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費	有	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (平成 19年 7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	百年橋クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所の法人は、北九州に本社を構え県内に多数のグループホーム事業を運営している。住宅街の中に在り、明るい外観で、訪問者を季節の花木が迎えてくれる。夜間以外は玄関や扉は開かれ、家族の面会時間にも制限がない。今年度は町内の組長を引き受けたことで、より一層地域にとけ込み交流を深めている。運営推進会議が縁で民生委員と一緒に、1人暮らしの高齢者宅を訪問し、安否確認をする等地域にも貢献している。まさに地域に根ざしたグループホームである。また看護学生やヘルパー実習、中学生の福祉体験の受け入れも行なっている。ホームでは、毎月アレンジフラワー教室や民謡教室、囲碁などレクリエーションも多く企画され、利用者の楽しみとなっている。日々の介護の中で一人ひとりの力を生かした声かけや場面作りを工夫し取り組んでおり、おのずとリビングに人が集まって来て心癒されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回いくつかの改善課題が示され、法人本部と管理者は、成年後見制度の支援強化に向けてパンフレットを準備し、利用者家族へ郵送するなど情報提供を行なった。また管理者は研修に参加し知識を深め全職員に周知し、制度の理解に努めた。必要時にはいつでも関係機関への橋渡しができるよう取り組んでいる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価の内容を理解し、日々改善に向けて取り組んでいる様子を、ありのままを見せていただくことが出来た。認知症の介護のプロ意識を持ち、理想とするホームに近づけるよう取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	管理者が体調をくずし辞めたこともあり、今年に入ってまた1回しか運営推進会議を開催していない。会議の参加者は、地区の民生委員を始め町内会長、利用者、家族、ボランティアの方々と職員である。まずはグループホームを知っていただけることを重点課題としている。今後は地域に開かれた地域密着型サービスとして、質の確保を図るためにも2ヶ月に1回は開催し、地域との交流促進に向けた話し合いの場になるよう、取り組まれることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
③	利用者一人ひとりの健康状態やレクリエーションの参加状況、生活状態を記入した「ふれあい通信」を毎月発行している。より分かりやすいようにデジカメを利用したり、利用者の生の声を記入するなどして、家族宛に郵送している。また玄関に意見箱を設置し意見を頂いている。苦情はなかなか言い出しにくいものであるとの認識を全職員は理解しており、意見を引き出す努力をしている。頂いた意見については職員で協議し、改善に向け迅速に対応するよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	地域の夏祭りに参加したり、保育園との交流を深め、地域との交流を大事にしている。今年度は組長を引き受けたことで、より一層地域にとけ込み交流を深めている。月1回町内会費の集金にまわったり、回覧板を持って行くなど、ごく普通の近所付き合いが出来ている。ご近所と顔見知りとなったことで、隣近所の方々と一緒に避難訓練を検討している。災害時に地域と協力できるよう、グループホームの声かけで是非、地域との合同避難訓練の実現に向け、取り組みを期待したい。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念と運営方針を玄関に掲示している。また1年ごとに法人共通の目標に向けて、サービスの提供を行なっている。開設当初より「地域社会と共に」を理念の柱としているが、残念なことに事業所独自の理念は作られていない。	○	グループホームの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」をすでに実践しているが、法人共通理念に加えて、「ふれあいの家長住」独自の理念を、管理者をはじめ職員で作りに上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、月1回のミーティングや日々の介護の中で常に話し合い理念を共有しており、「その人らしい生活」の支援に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は組長を務めており、月1回ご近所へ町内会費の集金にまわったり、回覧板を持っていくなどごく普通の近所付き合いが出来ている。組長を引き受けたことでより一層地域にとけ込み交流を深めている。また地域の夏祭りに参加したり、保育園との交流など地域との交流を大事にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることで、日頃の介護を見直すことが重要であることを十分理解している。前回の外部評価の結果はファイルに閉じ事業所玄関に置いており訪問者がいつでも見ることが出来る。理想とするホームに近づけるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者である施設長が体調をこわし辞めたことで、今年に入ってまだ1回しか運営推進会議を開催していない。会議には、町内会長や民生委員、ボランティアや入居者またその家族に声をかけ参加して頂いている。会議が縁で民生委員と一緒に地区の1人暮らしの高齢者宅を、月に1度安否確認の訪問を始めた。	○	地域に開かれたサービスとして、質の確保を図るためにも、2ヶ月に1回は運営推進会議を開催して頂きたい。その中で事業所の活動状況や利用者の状況を知って頂き、地域との交流促進に向けた話し合いの場になるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加する予定である。法人エリア担当者や法人本部として区の担当者に相談に向かうことはあるが、事業所としての取り組みは今現在は無い。	○	運営推進会議を足がかりに、事業所として少しずつ取り組まれるよう期待したい。例えば栄養面で市担当保健師に相談するなど、少しずつ質の向上に向け取り組まれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年度の外部評価後に、成年後見制度のパンフレットや資料を準備し、入居者家族に郵送し情報提供を行っている。また管理者は研修を受講するなど制度理解へ取り組んでおり、職員へ周知を図っている。調査時資料提供を求めたが、全て配布し1枚も残っていないかった。	○	家族面会時説明が出来るよう、事業所にも常時パンフレットや資料を行政から取り寄せることが望まれる。いつでも関係機関への橋渡しが出来るようタイミングのよい支援を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ふれあい通信」を発行している。一人ひとりの健康状態やレクリエーションの参加状況、生活状態を記入し郵送している。デジカメを活用したり本人のこぼをそのまま記入するなどわかりやすい内容となっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は不満や苦情は言い出しにくいものであるとの認識を全職員は持っており、玄関に意見箱を設置し、「心配なことはございませんか。ご意見をお聞かせ下さい。」と書いたプレートを添えている。頂いた意見は職員で協議し改善に向け迅速に対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が続いたことで、入居者の不安の軽減や解消に向け本部をはじめ全職員で対応策を検討し介護にあたった。また法人本部は職員の個人面談を実施し、意見や要望を聴く機会を設けるなど離職者減を目指し取り組んだ。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用基準は18歳から60歳までの年齢制限を設けている。今現在20歳代から50歳代の男女職員が働いているが、中には働きながら通信制で学ぶ職員もおり、それぞれの目標に向け努力している。休暇もとり易く、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営方針である①温かい人間味②信頼に対して誠意を持つ③元気な笑顔を挙げ、日々の介護の中で利用者一人ひとりの人格を尊重した介護を実践している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人合同の研修会に数名ずつ参加できるよう、勤務体制を考慮するなどして、研修の機会を作っている。管理者は介護の現場で共に考え助言している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区にある高齢者や障害者の施設従業員との集まりに半年ほど前から参加している。処遇困難な事例を持ち寄り勉強会を開き、少しでもその人らしい生活を支援できるよう日々の仕事に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を通して実際の雰囲気を体験して頂くと共に、自宅を訪問し本人や家族と面談を行なっている。更に3泊4日の体験入居をして頂きスムーズに利用出来るよう取り組んでいる。入居者の中には実際にホームに通いながら、職員が自宅を訪問し馴染みの関係を作り本人のペースで焦らず入居できた入居者も居られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と一緒に過ごす中で、一人ひとりの気持ちを受け止め理解しようと努力している。また入居者の得意分野で力を発揮できるような場面作りや声かけを行ない感謝したり、お互いに支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴や家族からの情報をもとに、一人ひとりの意向の把握に努め、出来る限り本人の思いや願いをくみ取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時や日々のケアのなかで、本人や家族の思いや要望を聞きだすように努めている。関係する計画作成担当者を中心に現場職員の気付きや意見をもとに話し合い一人ひとりであった介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。現場職員の意見を参考に疾病や認知症の進行に伴い、状態が変化した場合はその都度関係者間で話し合い介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人たちとの交流の中で、希望者にグループホームのパンフレットを持参し説明に行くこともある。また地域のひとり暮らしの高齢者宅を、民生委員と同行訪問し安否の確認をするなど、認知症介護の専門知識を持つグループホーム職員の知識を地域にも提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に主治医との連携を図っている。家族に代わって受診に同行することもある。また、協力医療機関であるクリニックより週1回訪問診療に来てもらう体制もできており、緊急時にも対応できるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期に対する本人や家族の意向を尋ねている。重度化した場合は医療との連携を図り、本人や家族にとって最善の方法を話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中でプライドを傷つけないような声かけや態度で接している。また書類は事務室に管理し、職員以外の人の目に触れないようきちんと保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。例えば食事をみんなと一緒に食堂で食べたり、一人居室で食べたりとその日の気持ちを尊重した柔軟な支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と共に考え、出来るかぎり希望に添ったものを取り入れている。プライの衣付けやおかずの盛り付けなど入居者一人ひとりの力を生かせるような場面作りを工夫している。誕生会には、外から鉢盛を取ることもあり、行事食に変化をもたせるなど工夫して楽しんでもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数には制限は無く、毎日や数日おきなど、本人の希望を取り入れて支援している。入浴の拒否が続いた場合は、声のかけ方やタイミングを見計らいながら、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより一人ひとりの生活歴を把握し、花活けや唄、囲碁などの楽しみごとを企画し参加して頂いている。また疾病で指が変形していても、上手にお皿拭きを手伝っている入居者の姿があった。一人ひとりの出番作りや生きがい対策への取り組みがなされている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園に散歩に誘っている。また毎月全員で出かける機会を作っている。そばが大好きな入居者と、そばを食べに同行することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない介護を実践しており、日中玄関は鍵をかけていない。門扉も夜間以外は開けており開放感がある。外出しようとする入居者に対しては、事故のないように声かけや見守りで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の非難訓練を予定しているが、今年に入ってまだ一度も実施していない。	○	近隣にも声をかけ、地域と合同の避難訓練の実現に向け取り組んで欲しい。消防署への協力を求め、より一層入居者と家族の安心が得られるよう今後の取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの主食、副食の摂取量については、毎日記録に残している。また脱水を起こさぬよう、水分摂取に心がけている。	○	肉や魚、野菜などバランスの良い献立作りに取り組んでいるが、今後は更に定期的に栄養士による専門的なアドバイスを受ければより理想的である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には数人で座れるソファを配置し、テレビを見たりみんなが集えるように工夫している。2階の廊下にも椅子やテーブルが置いてあり、入居者はそれぞれ好きな場所で自由に過ごすことが出来る。玄関や建物の周囲には季節の花が植えられ、食卓テーブルには摘んだ草花が飾ってあった。和紙の飾り物を多く使い心地良い空間を作り上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>長年使用していた鏡台などの馴染みの物品が持ち込まれている。また居室の入り口には、利用者と一緒に作った木彫りや和紙をアレンジした表札が掛けてあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		